

運転保守状況(備考欄)

1号機

11月17日(火)

原子炉格納容器漏えい率検査の準備中、試験方法を定めた原子炉格納容器の漏えい率試験規定(以下規定)では、一定であるべき容積比(原子炉格納容器代表空間と当該部に設置されている基準容器の容積比率)にばらつきがあることが確認されたため、規定のとおり一定となるよう改善をした。

【中国電力(株)公表済み】

12月1日(金)

第26回定期検査に伴う停止操作中の9月9日(火)3時40分に、中性子検出器「中間領域モニタ」チャンネル14(以下IRM CH14)の指示が一瞬変化し、「A-自動スクラム」警報が発生した事象について、調査の結果、IRM検出器を含む計測系に異常が認められなかったことから、IRM CH14の検出器とケーブルの接続部(コネクタ)の取付け状態の変化(締め付け部の緩み)に伴いノイズが発生したものと推定した。

対策として、IRM CH14の検出器側コネクタを、より締め付け力の強いタイプのコネクタと交換した。

また、次回定期検査以降、全てのIRMおよび中性子源領域モニタ(SRM)のコネクタについて計画的に、より締め付け力の強いタイプのコネクタに交換する。

【中国電力(株)公表済み】

2号機

10月13日(金)

原子炉圧力と原子炉熱出力の変化を運転員が確認。現場確認の結果、タービン建物2階の主油タンク室床面に水溜りとC-主蒸気圧力検出器付近からの水の漏洩を確認したため、当該検出器の元弁を閉止したところ、漏洩は停止した。

現在、原因調査中。なお、本事象による2号機の運転への影響はなく、また、環境への放射能の影響はない。

【中国電力(株)公表済み】

12月1日(金)

他社で発生した計器の設定誤りを踏まえ、自主的に調査を実施していたところ、平成18年11月6日に、低圧炉心スプレイポンプ入口圧力計の補正值が計器点検記録に誤って記載されていることを計器仕様表により確認した。

当該計器が定められた手順により校正されていれば、計器点検記録に記載されている誤った補正值が使用されるはずだが、点検の結果、圧力計の指示に問題なく、校正手順に不備はあったものの、プラントの安全運転上問題ないことを確認した。

原因は、計器点検記録に記載された補正值の記載ミスに加え、作業手順書等に計器校正作業の詳細手順が記載されていなかったこと等により発生したものと推定した。

対策として、当該計器を正しい補正值を用いて再校正するとともに、計器点検記録の補正值を正規な値に訂正した。

また、今後、作業手順書等の整備および手順書どおりに校正が行われたことを確認するため、計器点検記録に校正時の入力データを記録することとした。

【中国電力(株)公表済み】